

令和7年度第2回石川県能登地域公共交通協議会 議事概要

日 時：令和7年12月25日（木）13：30～

場 所：のと里山空港 42・43 会議室

出席者：別紙のとおり

1 開会

（石川県：三林交通総合対策監）

本日はご多忙の中、ご参集頂き感謝申し上げます。まもなく能登半島地震から2年が経過することになる。関係各位のご協力により、順次、地域公共交通は復旧しているが、いまだ復興道半ばであり、公共交通は厳しい状況にある。

本日は、各市町を結ぶ地域公共交通を対象とした第二次計画の素案について説明させていただく。また、国から支援を受けて奥能登2市2町で運行される AI オンデマンド交通の検討状況や、のと鉄道の車両デザイン等についても報告させていただく。皆様には、公共交通の確保に向けて忌憚のないご意見をいただきたい。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 会長挨拶

（高山会長）

本日はクリスマスということで、少しはわくわくする気持ちがある一方、控えるべきという思いもある。対策監からの話にもあったとおり、あと1週間で能登半島地震発生から2年になる。奥能登を少し回ってきたが、震災直後と比べて復旧はしてきているが、まだ道半ばであり、復興にはほど遠い。県では創造的復興を掲げているが、能登が元の状態以上の復興を果たすためには、様々なことをクリアする必要がある。もちろんインフラの復旧は重要だが、生業や住居の再建も重要である。ただ、それだけでは13%以上減少した人口を戻すには厳しい。インバウンドを含めて、能登に多くの方が来ていただかないと復興にはつながらない。そのためにはインフラの整備も重要だが、地域公共交通の充実も不可欠である。

本日、今年最後の協議会であり、第二次計画素案の審議となる。各市町で内容をご確認いただき、忌憚のない意見をお願いしたい。

3 報告案件

- （1）石川県能登地域公共交通計画（第二次計画）素案の概要について・・・資料1
- （2）「交通空白」解消パイロット・プロジェクトについて・・・・・・・・・・資料2
- （3）「のと鉄道」車両デザインの決定について・・・・・・・・・・資料3

4 意見交換

(高山会長)

報告案件(1)～(3)について、順番にご意見をお願いしたい。

(七尾市：星野副市長)

AI オンデマンド交通の導入について、奥能登2市2町でモデル事業を行うとのことだが、七尾市でも今年、オンデマンド交通の導入を検討するための調査を行った。路線によっては1便当たり数人しか乗車しておらず空気を輸送している状況にあり、来年度、一部路線のデマンド化やオンデマンド交通の導入を進めることを考えている。

現在、地域公共交通が赤字であることも大きな問題であるが、運転手不足も大きな問題である。パイロット・プロジェクトの報告でもあったように、どの程度きめ細かに停留所を設けるかが問題になるかと思う。きめ細かな対応をしすぎると、運転手不足を助長させる可能性がある。実証実験を行うにしても先を見据えて考えないといけない。いずれにしても実現可能な形で制度設計していくことが課題になると思う。

(輪島市：中山副市長)

奥能登2市2町でAI オンデマンド交通のモデル事業として実施することになるが、復旧復興の状況を踏まえた交通形態になるよう、対応していきたい。

(珠洲市：金田副市長)

大きく2点発言する。第二次計画については全体的にバランスよく作成いただいており、これに沿って進めていけばよいと考えている。一方で、バランスが良いが故に、中途半端なようにも感じる。

まず1点目について、将来像において、持続可能な地域公共交通とあるが、持続可能とは何かということを考える必要がある。根本を考えると、運転手不足の問題を避けて持続可能な地域公共交通は語れないと思っている。新病院の話が出ているが、新病院について言及するからには、本計画は10年スパンの計画であるべきであると考えており、10年先のことを考えると、自動運転を計画に位置付けるべきではないか。既に加賀地域では導入が進んでおり、道路復旧が進んでいない能登ではハードルが高いと思うが、運転手不足の問題をどのように解決していくのかを、課題として計画に位置付けることはとても重要であると思う。

2点目は、復興公営住宅の建設や病院の統合、道路の復旧など、復興が進むにつれて、この2年間でアンケートや調査等で把握した状況はどんどん変わっていく。この協議会は今日がゴールではなくスタートであり、自治体職員や関係者と議論できる場を継続して設けることを計画に謳うべきかと思う。

(羽咋市：川口副市長)

素案 P53 の施策2「輸送手段の総動員による面的交通ネットワークの実現」について、鉄道は広域基幹交通として、第一次計画で位置づけられているが、羽咋市には鉄道駅が3駅あり、市内の移動手段としての役割も担っている。そのため、第二次計画に鉄道事業者の位置づけが無いことに違和感があり、鉄道事業者のことも計画に記載してほしい。

素案 P54 の施策3「担い手の確保」について、自動運転のような新たな技術導入が必要と考える。こちらについても計画に記載してほしい。

素案 P55 の施策4「広域運営体制の確立」の取組②「広域連携による公共交通の効果的な運営」には、中能登地域についての具体的な記述がなかったが、奥能登地域よりも自治体間の交流が多い中能登地域の自治体は特に広域連携に期待している。経済的にも共同での運用に力を入れていきたいと考えている。また、実施主体のところで、県が白丸になっている。可能であれば県でイニシアチブをとって運営していただきたい。

最後に、素案 P61 の評価指標について、公的財政負担額の項目は第一次計画にもあり、また羽咋市の地域公共交通計画においても同様の目標指標があるが、交通政策は、地方に行くほど福祉施策になりつつあると感じている。そのような状況を踏まえると本当に公的負担を抑えるべきなのか疑問である。これからは住民の足の確保やサービス向上にシフトしていく必要があると感じており、目標として掲載するのであれば、一人当たりで示したほうがよい。

(志賀町：山森副町長)

経済圏が密接している中能登地域においては、面的に施策を進めていくことが重要であると考えている。地域ごとに実施しようとする場合、民間事業者との調整が難しい。

志賀町では今年度から AI オンデマンド交通を導入したが、利用が減少してしまい、高齢者が多い地域での導入に難しさを感じている。また、ライドシェアについても言葉としては資料に載っているが、もう少し具体的に内容を記載しないと進まないと思う。市町ごとにシステムを作成することは非効率であり、能登地域で共通のプラットフォームを作成する等の取組を、県がイニシアチブをとって進めてもらいたい。

(宝達志水町：金田総務課長)

能登地域は広域であり、効果的な輸送方法を考えていかないといけない。また、市町跨ぎの交通の場合、輸送の時間的な問題と需要のバランスをとることが難しいと感じている。最低限の地域公共交通は行政が後押しして、対応することが必要になると思う。

(中能登町：池田副町長)

市町跨ぎの交通について、利用者の移動する時間帯が重なることを考慮すると、ニーズに応じた公共交通の実現はハードルが高いと思うことがある。コミュニティバスでも時間帯によっては乗客がいなくてもあるが、減便するとさらに利用が低下してしまうため、悩ましい。

また、素案 P56 の取組①で「住民や来訪者に対する一元的なわかりやすい情報提供」とあるが、ホームページ等による情報提供やバス停におけるデジタル案内板によって、本当に住民や来訪者が使いやすくなるのか疑問である。各地点間の移動で最適な経路を示してくれるようなシステムとしてほしい。

(穴水町：宮崎副町長)

素案 P59 の取組①「災害公営住宅や奥能登公立4病院の再編・統合など復興まちづくりに合わせた取組の推進」については、新病院の運営主体として奥能登2市2町および県による一部事務組合の設立の話もあるので、県も主な主体として取り組んでほしい。

(能登町：山下総務課長)

奥能登2市2町ではAI オンデマンド交通を導入することとなっており、AI によるリアルタイム配車サービスなど、効率的な運用に期待している。また、予約受付に係る人件費も削減されると思う。今後は市町を跨いだ移動や観光周遊において、AI オンデマンド交通が利用されるとよいと思っている。料金体系やサービス区域の連携についても難しい面があると思うが、まずは小さな目標として、区域内のAI オンデマンド交通の利便性の向上を図っていきたい。

(高山会長)

これで行政の代表の方々にご意見をいただいた。次は利用者の代表や交通事業者、担い手の皆様にご意見を伺っていきたい。

(石川県老人クラブ連合会：山崎委員)

高齢者でイベント・会議等を行ったところ、通院や買い物の利便性の向上のほか、家族の負担が軽減することに期待しているとの意見が出ていた。この会議に老人クラブとして参画していることも報告している。まとまった段階で会員に対して周知をしていきたい。

(石川県高等学校PTA連合会：西谷委員)

AI オンデマンド交通の導入は良い取組だと思うが、導入したところで利用が減少したということもある。高齢者などのスマホ難民のことも考えると、ケアマネージャーなどが代わりに予約できるシステムを構築していただくと、より良いものになると感じている。

(JR西日本：塚本次長)

先週の土曜日に和倉温泉駅の開業100周年式典を行った。その一環として、地元の小学生に対して、将来に向けたメッセージをお願いしたところ、300名もの小学生から心温まるメッセージをいただいた。我々が思っている以上に地元の方に愛着を持ってもらえていると感じた。羽咋駅では、老朽化した壁を地元の高校生にデザインしていただき、新しく塗装する予定である。

駅は単なる交通の通過点ではなく、地元の心の拠り所になっており、既に駅として使われていない場所も活用されている。今回の計画においても駅での待合環境の充実が課題としてあったため、今一度、地元の方々と協力して駅の環境をよりよくしていきたい。

（のと鉄道：中田社長）

素案 P56 の取組①「住民や来訪者に対する一元的なわかりやすい情報提供」について、どのような媒体でどのような情報を提供していくのかが重要である。スマートフォンで完結することはなく、市町の交通結節点における、モニターなどによる情報案内が必要である。目的地までどのようなルートがあって、どれくらい時間がかかるのかを発信しなければいけないと思う。

輸送業界では今まさに自動運転が求められており、鉄道業界は十数年前から検討が始まっていた。現在自動運転で営業運転を行っている路線もあり、免許を持たない車掌が発車と停車のスイッチを操作する形で運行している。バスの運転手不足対策においても、自動運転は効果的な手法だと思うが、安全対策の面から今すぐの導入は難しい。部会等を通じて真剣に議論していくことが必要だと思う。

弊社では退職希望者が2名出ているが、社内からの転属と中途採用で穴埋めを行った。また、来春に県外から転居して運転手になろうとしている方もいる。何とか人員は確保できているが危機感を持っており、既に自動運転に関する勉強を開始しているところである。

（北陸鉄道：高橋自動車部長）

運転手不足が深刻となっている中、能登地域においては運転手の高齢化も進んでおり、数年後には現状のダイヤを維持することが難しい状況が到来する。弊社でも労働環境改善等に力をいれつつ、人員確保に努めている。一方で、物価高騰が拍車をかけており、安全に関する設備投資を行う際の補助が必要不可欠となっている。それだけでなく、現状で運行している路線バスがどこまで必要かということを真剣に考えなければいけないフェーズにある。素案中のアンケート結果でも、切実な意見が寄せられており、交通弱者の意見も取り入れながら、ワーキンググループを設置して能登地域の公共交通について協議していきたい。

弊社のグループ会社に加賀地区において自動運転バスを運行しており、現在レベル4の導入に向けて議論しているが、交差点部の運行が難しい。能登地域においても導入は可能かもしれないが、長距離運行のイメージがわからない。実行に移す場合には、ワーキンググループで検討を行ったうえで、早急な対策が必要である。

（能登島交通：星野総務部長）

路線バスを一部運休し、AI オンデマンド交通の実証運行を行っている。能登島交通独自で実証運行を行っているのも、運転手不足が深刻化しており、令和8年度には現在の運行形態では継続が不可能であるという試算が出ているためである。

AI オンデマンド交通を導入すれば解決するというわけではなく、高齢者の利用者に対しては人の力でないと対応できないことがある。足として確保するだけでは、持続可能な公共交通サービスであるかどうか疑問が残る。近隣スーパーとの連携や介護施設での説明会など、地域一体で利用を促進する環境の構築が必要ではないか。

(石川県タクシー協会：宮崎専務理事)

タクシー事業も運転手不足が深刻化してきており、家族営業などの小規模な経営が増えてきている。公共ライドシェアについては福祉と連携する視点が重要ではないか。タクシー事業を中心に日本版ライドシェアも実施しているため、市町と協力して公共交通を維持していきたい。

一方でタクシーには市や群単位で営業区域があり、能登地域の場合、1つの自治体内で複数営業区域があるなど、運行範囲に制限がある。国土交通省が中心となり、営業区域を統合することで、近隣市町への移動を可能とすることも必要ではないか。

(石川県交通運輸産業労働組合協議会：大脇委員)

2024 年問題として話題になったが、公共交通が主に利用される時間帯は朝晩が中心であり、働く時間に制限があることは、現状維持においてハードルが高くなっている。人口が 13%減少しているなか、このままでは路線バスの幹の部分も崩壊する可能性がある。10 年先を見据え、県外からの移住も含めて運転手確保に向けた施策を考えていただきたい。

(高山会長)

これで利用者の代表や交通事業者、担い手の方々にご意見をいただいた。関連する行政の方にご意見があれば伺いたい。

(石川運輸支局：開田支局長)

地震発生直後、珠洲市や輪島市ではタクシー事業者がゼロになるなど、奥能登地域では運転手不足が深刻である。国土交通省がパイロット・プロジェクトを採択したのは、市町単位では持続性を保つことは難しいとの考えがあつてのことである。さらに、その中でも AI オンデマンド交通の導入は、様々な問題があり、事務局の皆様には苦勞を掛けている。一方で運転手不足は今後も継続する問題であるため、引き続き、対応を検討する必要があると考えている。

自動運転について、自動運転に関する事業に携わっていないため、個人的な素人考えになるが、自動運転はキャッシュレスやオンライン対応が前提となるため、現状では高齢者の多い地域における早期導入は難しいのではないかなと思う。ただ、長期的には、自動運転技術の導入を進めていく必要はあると思う。皆さまのご協力をいただき、良い方向へ進めていきたい。

(高山会長)

その他、追加したいことがあれば伺いたい。

いただいたご意見について事務局で回答できるものについては回答していただきたい。

(事務局)

七尾市からご意見いただいた AI オンデマンド交通については、奥能登 2 市 2 町での利用状況やノウハウなどを情報共有する場を設けていきたい。

珠洲市からご意見いただいた協議会のあり方については、計画を策定し、事業推進の間に必要な議論や評価を行うことは必要であると思う。ワーキンググループに関する意見も複数の委員からいただいた。本日の意見を踏まえ、既存ワーキンググループの今後の在り方、進め方を検討していきたい。

自動運転については、小松市では 30km 制限で運行していると思うが、30km では奥能登で実装することは難しいのではないかと考えている。一方で自動運転を取り巻く状況を把握しておくことは重要であると考えており、本日の意見を踏まえて今後検討していきたい。

中能登地域の広域連携についてご意見をいただいた。既存のワーキンググループがあるので、県では支援等を主体的に取り組むが、市町でも主体的に取り組んでいただきたい。

KPI の公的財政負担額については、もっともな意見であると考えているが、公的財政負担額は法的にも必ず設けなければならない指標である。本日の意見を踏まえ書きぶりを検討したい。

最適な公共交通経路検索についてであるが、自治体独自で開発、メンテナンスを行う場合にはコストがかかってしまう。コミュニティバスなどのデータをオープンデータとして公開することで Google マップやジョルダンでの検索が可能となるので、各自治体でも取組を進めてほしい。一方で AI オンデマンド交通については、オープンデータを作成することが困難であるため、市町の協力が必要であると考えている。

鉄道に関する意見については、持ち帰って前向きに検討したい。

各交通事業者からのご意見については、適するワーキンググループなどで検討していきたい。

(高山会長)

能登地域を取り巻く状況は目まぐるしく変化しており、復興状況だけでなく人口減少などは地域ごとに差が生じている。このような状況の中で、公共交通の維持・復活は喫緊の課題であり、計画の実行性を高めることは非常に重要な観点である。計画に沿って着実に実行するためには、今回 5 年計画になっているが、2 年後くらいに中間見直しが必要ではないかと思う。中間見直しの際には、達成状況を詳細に把握し、達成できていない指標に関しては適した施策を加えることが必要である。

また、利用者目線が足りていないと感じる。AI オンデマンド交通についても予約を簡単にできるアプリを県全体で導入することが必要ではないか。予約ができない場合、利用することを諦めてしまう利用者もあり、利用者の減少だけでなくひいては健康寿命の短縮につながっていく。県には国の補助を活用しつつ、予約アプリを作りこんでいただきたい。国においては、今回のプロジェクトを好事例として水平展開することを考えていると思うため、利用者目線で便利となるように基礎を固めていただきたい。

自動運転の短期導入は厳しいと思うが、国は全国展開を目指しているため、その波にのらない手はない。どのように導入することができるか検討する必要があると思う。金沢大学は 10 年前から珠洲市で実証実験をしているので、支援があればうまく導入できないものか確認が必要ではないか。第 1 段階として、自動運転のバスであれば、一種免許やハイエース等の小型車両で十分であると思うため、検討していただきたい。

本日の意見を反映することとして、会長一任とさせていただいき承認いただいてよい。

全員異議なく承認

5 議事案件

- (1) 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（計画策定等に係る事業）について・・・資料4
- (2) 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）について・・・資料5

(高山会長)

まず議案第1号について、ご意見やご発言があればお願いしたい。

特に意見がないようなので、採決に移る。議案第1号について承認いただけるか。

全員異議なく承認

(高山会長)

続いて議案第2号について、ご意見やご発言があればお願いしたい。

特に意見がないようなので、採決に移る。議案第2号について承認いただけるか。

全員異議なく承認

(高山会長)

他にご意見のある方がいればご発言いただきたい。

ワーキンググループについてはできるだけ早めに関わっていただき、課題を明らかにしていただきたい。また、計画を動かす組織体系が明確に書かれていない。広域連携を市町に任せるのは酷であるため、県が主となって進めていただきたい。

この後の進行は事務局にお任せする。

6 閉会

(石川県：小林交通政策課長)

高山会長および委員の皆様においては、熱心に議論いただき感謝申し上げます。計画案については、本日の意見などを反映したうえで、パブリックコメントを実施したいと考えている。その後、来年3月に協議会を開催し、正式に決定したい。本日はお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。これにて本協議会を終了する。

以 上

